

NEWS

連携で支える国内最高水準の三次救急医療
救命救急センター

救急医療の最後の砦としての責任を担う当院の救命救急センターが、厚生労働省の充実段階評価で最高ランクのS評価を受けました。病院内での連携の成果と強調する今井寛センター長に聞きました。

救命救急センターの役割をどう捉えていますか。

救命救急センターは、厚生労働大臣が指定するもので、1)重症の救急患者さんを原則24時間体制で受け入れる、2)一次・二次救急医療の後方病院となる、3)救急医療の人材を育成するという3つの大きな役割があります。これを踏まえて我々がどう捉えているかといえば、“救急医療の最後の砦として地域貢献をする”ということです。

一刻を争うような患者さんの受け入れには、相当の心構えも必要です。

救急医療は、医療資源の質と量、それから時間が結果を左右すると言われる。当院の救命救急センターでも、人をはじめとする医療資源と提供できる医療の質を充実させ、どんなときでも最適な判断・治療を迅速に行えるようにしておくことが、当然ながら基本方針です。確かに緊急かつ重篤な症例が多いですが、その現場を支えているのは、チーム全員の「地域のために」という想いや救急医療のやりがいでしょうか。もうだめかというような状況にあった患者さんの回復していく姿を見ると、救急医療に携わる者ならではのやりがいを感じます。

厚生労働省の「平成31年～令和元年度救命救急センターの充実段階評価」*では、最も高い「S」評価を受けました。

これは救命救急センターに対してというよりも、病院全体への評価だと理解しています。あらゆる診療科や部門との連携、医師、看護師、技師、薬剤師など各職種からの応援がなければ達成できないからです。評価のための煩雑な資料作りも事務方が苦勞を惜しまず力を貸してくれました。今回S評価を受けたのは当院を含め全国292中76施設。国立大学附属病院のセンターの中では10施設のみで、そのうち当院は総合点で94点の4位でした。現場から事務処理まで、救命救急センターだけの力ではなく、科や部門の垣根を越えた全職員による協力の成果以外にありません。

この評価で平成30年度は「A」、今回さらに「S」に上がりました。

各診療科との連携による人員の増強、BCP(緊急事態発生時の対策)の強化、重症度や緊急度に基づく判断基準の見直しなど、いろいろな点で少しずつ続けてきた改善の結果です。評価基準は、前年度に比べて若干厳しくなったんですが、そうした地道な積み重ねが評価されたことはとてもうれしいです。



三重大学病院は、もともと救急に強みがあったのでしょうか。いえいえ。当院は2010年6月に救命救急センターに指定されたわけですが、それまでは救急専門医の数、受け入れ患者数、各診療科との連携など、様々な面で救急体制は十分とは言えませんでした。先ほど話に出た充実度評価でいうと、センターに指定されてすぐは総合点で66点という結果でした。

救急医療はもともと臓器別で発展してきましたが、それでは多臓器に関わる緊急性の高い症例には対応しきれません。よって、幅広い領域の医療を統合し、時間や優先度を判断しながら治療にあたる専門的なシステムが必要です。私は救急専門医として2011年にこのセンターに着任しました。救命救急センターが、通院患者さんや入院患者さんの急変に対応したり、逆に各診療科に救急症例への協力をお願いしたりしながら、当院が目指す救命救急センターの形を少しずつ一緒に作り上げ、ようやくここまで来たという感じです。

今後の目標としていることはありますか。

これからも救急医療のシステムの強化と改善を続けること。そして人材の育成です。地方は都市に比べるとどうしても救急医療の資源が十分ではないところが多いです。地方における高度な救命救急の確立モデルになるくらい、この三重県で最高レベルの体制を築いていきたいと考えています。

そのモデルの要となるものは何でしょうか。

やはり病院内の連携と人材育成です。救急医は、すべてを治療できるわけではありません。センターに搬送されてくる患者さんは、様々な領域、複数症状など複雑で多様です。救急医は、全体を診て、優先度を見極め、救命処置をしていきます。しかし、各領域の高度専門医療についてはその専門医に任すのが一番です。また看護師、技師、薬剤師をはじめ幅広い職員との連携も質の高い救急医療には絶対必要です。救急医は、特に地方ではまだまだ数が足りません。それを補えるのは病院内の連携です。その中で当院のセンターでは、救急専門医、指導医、看護師など優れた人材もかなり育ってきました。地域の最後の砦として、また救命救急医療の確立モデルとして社会に貢献できると信じ、これからも頑張っていきます。

*救命救急センターの機能や質の向上を通じて、全国の救急医療体制の強化を促すことを目的に、厚生労働省が全国292の救命救急センターを対象に実施。評価は40以上の項目で行われ、各センターの充実度は「S」、「A」、「B」、「C」の4段階で示される。100点満点中92点以上かつ是正項目がない場合にのみ「S」評価となる。当院のセンターは、94点・是正項目なしでS評価を受けた。

PROFILE | 今井 寛

救命救急センター センター長・教授

「迷ったら、やる」「悩んでいるなら行動」－これが救命救急医療の最前線に長年携わる中で行きついた答えであり信条。そして、「いつでも、どこでも、だれにでも最善の救急治療を」が医師としての目標。

24時間365日緊張の連続でも、患者さんが元気になっていく姿を通して得られる救急医療のやりがいは何物にも代えがたい。



三重県の新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策は新たな段階に入りましたが、感染への注意は引き続き必要です。そんな中、三重県での対策がどうなっているのかも気になるでしょう。三重県医療保健部 医療政策総括監の田辺正樹氏に伺ってみました。

三重県の感染状況

県内の新型コロナウイルス感染者第一例目は、今年1月30日と全国でも早いタイミングでした。ピークは4月中旬で、感染者が数名出る状況が数日続きましたが、それ以降、拡大傾向は見られていません。感染者数は6月末現在で累計46名、全国的に見て比較的低い水準です。県内の死亡例は一例のみで、重症例はありませんでした。

クラスターを作らない対策

感染症対策で重要なことは、濃厚接触者（感染者の周囲にいた人）にどうアプローチするかということです。三重県では、感染経路を先回りして絶つために、濃厚接触者については、症状の有無に関わらずできる限りPCR検査を行い、他者との接触を避けていただくという方針を取りました。保健所の職員が情報を細かく聞き取り、地道に濃厚接触者を追って、検査につなげていきました。「クラスター対策」というよりも、三重県が目指したのは、「クラスターを作らない対策」です。この方針は、今後も継続する予定です。

第二波に向け医療と検査の体制を強化

今後、三重県として注力していくのは、医療と検査の体制強化です。新型コロナウイルス感染者の入院病床として、これまで感染症病床24床に加え、一般病床150床程度、さらに軽症者の療養施設として宿泊施設64室を確保してきました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いている当面の間は、一般診療との両立を図る観点から、一般病床の確保分を縮小しますが、万が一の感染拡大の際には、医療機関に協力を頂きながら、再度、受け入れ体制を強化することとしています。宿泊療養施設についても、状況に応じて柔軟に対応できる仕組みを構築していく予定です。

また、検査体制の強化も今後の対策において重要となります。帰国者・接触者外れに加え、地域の医師会等が運営する地域外来・検査センターの設置を進めるとともに、PCR検査だけでなく、新たに利用可能となった抗原検査を活用するなど、検査体制の整備も続けていきます。

一人ひとりが心がけていくこと

ワクチンや治療薬が開発され、万人にいきわたるまで、このウイルスとの共存を前提とした生活をしていかなければならないでしょう。そんな中で私たち一人ひとりにできることは、やはり手洗いを行い、密を避け、他者への感染防止策としてマスクを着用することが重要といえます。

県民の皆さんへのメッセージ

新型コロナウイルス感染症への対応のため、県民の皆さんには様々な制限や自粛要請に多大なご協力をいただきました。また、不運にも感染された方々にはいろいろと辛い思いをされているところ、行動歴の調査などにご協力いただきありがとうございます。こうした皆さんのご協力により、三重県においては比較的早期に第一波の感染拡大を抑えることができました。三重県としては、引き続き県民の命を守りぬくという観点で感染防止対策を進めていきます。

(インタビュー: 2020/6/30)



三重県医療保健部 医療政策総括監 田辺 正樹 氏

PROFILE

三重大学医学部卒業。循環器や感染症を専門とし、国立国際医療センター、三重大学病院、山田赤十字病院、米国ピッツバーグ大学などで臨床・研究に携わる。また厚生労働省において地域医療や感染症対策などの医療行政にも従事した。2019年に三重大学病院感染制御部から三重県に出向し、現在、県の医療政策を担当するとともに、新型コロナウイルス感染症対策においても中心的な役割を担っている。

病院主催の公開講座やイベントなどをご紹介します

EVENT INFORMATION

● 7月・8月のイベント ● 9月のイベント

お問合せ・お申込みは、各連絡先まで。状況により予定や内容が変更する可能性があります。最新情報は、病院ホームページでもご確認いただけます。



膵がん教室が再開します!

無 料 要予約

2020.7.14 火 医師「治療に役立つ膵ぞうの知識」

7.28 火 看護師「暮らしで注意していくこと」

8.11 火 栄養士「食欲不振時の食事の工夫」

8.25 火 薬剤師「お薬との上手な付き合い方」

時 間 14:00~15:00(1組15分・計4組)
1組2名様まで。1組15分ずつの入れ替え制とします。

場 所 三重大学病院外来棟1階 リボズハウス(患者支援室)

対 象 者 膵がん患者様・ご家族様(院内外問わず)

申 込 み リボズハウス TEL:059-232-1111

*状況を見ながら、段階的に全体での勉強会に移行していく予定です。
*参加の際は、検温やマスク着用など感染症対策にご協力のほどお願いいたします。
*状況により開催中止となる場合があります。

2020.9.13 日

パープルリボンウォーク&セミナー 2020

毎年9月に実施している膵がん撲滅アクション「パープルリボンウォーク&セミナー」を、新型コロナウイルスの感染防止対策を万全にした上で今年も開催することになりました。詳細は決まり次第、お知らせします。

*状況により開催予定に変更がある可能性があります。

場 所 三重大学構内・三翠ホール

ボランティア募集!

このアクションの運営は毎年多くのボランティアにより支えられています。今年も中学生以上の方々からボランティアを募集します。詳しくは、三重パープルリボンのサイトをご覧ください。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/pancan/>

診療科のご紹介

「麻酔科 鍼灸外来」

受診方法など、お問合せをいただくことのできる鍼灸外来についてご紹介いたします。

当院の鍼灸外来とは？

西洋医学に日本古来の伝統医学である鍼灸（はり・きゅう）を合わせ、統合的にケアする統合医療を行っています。体内にある経穴（ツボ）を刺激することにより症状の改善を期待します。

治療の際に痛みはありますか？

鍼は、直径0.14〜0.20mmと毛髪程度の太さで、個人差はありますが痛みはほとんど感じません。また全てディスプレイ（1回使用ごとに廃棄）の鍼を使用します。お灸は、直接肌に触れない間接灸を使用するため、やけどや痕の心配もなく、痛みもありません。火を使わない電気のお灸を使うこともあります。

どんな症状に効果が期待できますか？

肩こり、腰痛、膝の痛み、その他の慢性的な痛み、自律神経の不調、消化器の不調、泌尿器・産婦人科系のお悩み、また疲労やストレスによる心身の不調、不眠といった様々な症状や、健康維持に効果が期待できます。また、「未病」といって、疲れやすい、眠れないなど、病気ではないが、健康でもない状態に悩まれる方も多く来られます。



鍼灸師からのメッセージ

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの経験を活かし、スポーツ外傷やスポーツ障害のケアに対応しています。また、緩和ケアチームにて、抗がん剤や長期の入院によって起こる様々な症状の緩和を目指しています。

鍼灸師 向井 雄高

「不調を感じるが西洋医学的な検査では異常なしだった」など、未病と言われるような状態に対し、鍼灸治療が有効な場合があります。また現在治療中の方も、鍼灸の併用で症状が軽減し、日常生活がしやすくなる場合があります。お気軽にご相談ください。

鍼灸師 野瀬由圭里

患者さまの症状と一緒に向き合い、心身ともに楽になれるよう鍼灸でお手伝いできるような心がけています。また症状に対し、自宅でできるツボ押しやお灸の指導もいたします。お気軽にお尋ねください。

鍼灸師 寺田 憲弘

診療案内

■初診のご予約・お問合せ：外来窓口まで直接お越し頂くか、鍼灸外来（麻酔科）へお電話でお願いします。

（午後1時30分～午後4時）

TEL:059-232-1111（代）

■外来棟2階 鍼灸外来（麻酔科外来 併設）

診療時間

	月	火	水	木	金
午前 9時～12時	スポーツ ○	緩和 ○	○	×	○
午後 2時～5時	○	○	○*	○	○*

※水・金は午後1時からとなっております。

自費診療（入院中除く）のため、初診4720円、再診3670円となっております。

がん治療など他の治療との併用は可能ですか？

主治医の先生の同意・許可を前提として、併用可能です。例えば、抗がん剤による吐気の抑制、疲労感・倦怠感などの軽減、副作用による手や足のしびれ・痛み（末梢神経障害）の軽減などで多くの改善事例が見られます。当日の体調や治療・検査の内容などにより受診の可否を判断させていただきます。

誰でも受診できますか？

どなたでも受診いただけます。また、当院の入院患者さんでも主治医の先生の同意・許可がある場合は受診可能です。

MESSAGE

“FACE”

当院には、外国出身の方にも安心して診療を受けていただけるように、こんな2人の医療通訳士が常駐しています。

Q.どんな仕事をしていますか？

A. スペイン語医療通訳士として外国人患者さんと医療従事者のコミュニケーションを支援しています。必要とされているところならどこへでも行きます！外来棟、病棟、手術室、検査室など…院内のあちこちに出発しています！

声をかけていただくと嬉しいです！

Q.仕事で心がけていることは？

A. 受診前の聴き取りです。患者さんの立場を理解するために、まず診察室の外で聴き取りを行います。親身になって向き合い安心して頂けるような環境を作るようにしています。

スペイン語医療通訳士歴2年

アラウコ マリアさん

趣味：カラオケとダンス

何事にも
一生懸命取り組み

モットー
は？

平常心・感謝

モットー
は？

Q.どんな仕事をしていますか？

A. ポルトガル語を母語とする患者さんの受診・検査・入院手続き・窓口対応など、診療に関わるあらゆる場所での医療通訳を行っています。患者さんの状況に応じて、必要なところに繋ぎ、各科・各部門の担当者と協働しながらサポートすることも大切な仕事です。

Q.仕事で心がけていることは？

A. 常に中立の立場で通訳を行い、患者さんと医療スタッフ両者に安心感を与えるような通訳を心がけています。

ポルトガル語医療通訳士歴11年

ワキモト 隆子さん

趣味：映画鑑賞・観劇・ヴァイオリン演奏



健康一言アドバイス

『危険な季節！油断していませんか？熱中症対策』

熱中症が起こりやすいのは、太陽がぎらぎらと照りつける真夏の暑い日だけとは限りません。

梅雨の晴れ間や梅雨明けの急に蒸し暑くなったときなど、身体がまだ暑さに慣れていない時期にも起こります。また、コロナ対策でマスクをしている人が多いと思います。マスクをつけていると、体の中に熱がこもりやすくなるため、知らない間に脱水症状から熱中症になるおそれが高まります。予防には、こまめな水分補給を心がけること。熱中症に対する、正しい知識、対処方法を知り、暑い時期を元気に乗り切りましょう!!



熱中症の症状って？

めまいや顔のほてり、筋肉痛や筋肉のけいれん、体のだるさや吐き気、ふいてもふいても汗がでる、或いは、まったく汗がでないなど汗のかきかたがおかしい、皮膚が熱く、赤く乾いているなどの症状は、熱中症の可能性がります。

こんな人が危ない？

子供や高齢者、屋外で働く人、キッチンで火を使用する人、スポーツをする人、暑い日にクーラーなしの屋内にいる人が熱中症にかかりやすいといわれています。特に、クーラーを好まない御高齢の方が暑い室内で熱中症を発症した例は多く報告されています。また、ベビーカーで子供を移動させる際は要注意です。地面からの照り返しで予想もつかない暑さとなります。畑仕事や散歩は、早朝など気温が上がっていない時間帯に行ってください。

応急処置は？救急車は呼ぶの？

意識があれば涼しい所へ移動し、衣服を緩め、首筋、わきの下、足の付け根を中心に氷枕や保冷剤を使って冷やしましょう。うちわなどで扇いであげても良いですね。水分摂取も忘れずに！
これでも良くならない場合や、最初から意識がない場合は、すぐ救急車を呼びましょう。

総合内科 科長 山本憲彦

院長からの

あいさつ



ご理解・ご協力ありがとうございます

当院で取り組んでおります様々な新型

コロナウイルス感染防止対策に伴い、患者

さんやご家族の方々、関係者の皆様に大変

ご苦勞やご不便をおかけしておりますこと

をお詫び申し上げます。

皆様のご協力により、院内感染の事例な

く今日を迎えております。本当にありがと

うございます。

当院の外来患者さんを対象とした発熱

外来を病院構内に別途開設する準備も

行っております。また、引き続き、患者さん

を感染からお守りするよう万全の対策を

取ってまいります。

ご不便をおかけすることも多いかと思

いますが、今後とも何卒ご理解、ご協力のほ

どお願い申し上げます。

院長 伊佐地秀司

編集後記

国内史上初の緊急事態宣言が解除となりました。学校も再開となり、長かった春休みもようやく終わりといったところでしょうか。

ですが、世界規模で見ればまだまだ予断を許さない状況です。

第二波が来るまでの準備期間を頂いたと考え、新型コロナに負けない「身体づくり」と新型コロナに感染しない「新しい生活様式」を取り入れていくことが重要です。

皆さんが健康な暮らしを続けられるよう、引き続き応援しています。

(百崎)

へえー！そうなんやあ！
三重大学病院トリビア
vol.5 ドクターヘリの年間飛行距離は？
空飛ぶ救急医療室、ドクターヘリ。当院は、2か月交代で三重県のドクターヘリの運航を担っています。2019年度の当院からの現場出勤は108件。その飛行距離は約13,500kmで、直線にして三重県から南極昭和基地までに匹敵します。時には悪天候により、帰りはスタッフが陸路で戻ってくることも。協定により、奈良県や和歌山県に出勤することもあるんです。 ※2019年三重大学病院基地病院期間中の統計

国立大学法人【特定機能病院】
三重大学医学部附属病院

三重大学病院広報紙「ミニ ミュース」vol.6 2020年7月発行 無料

TEL:059-232-1111 (代表)

発行:三重大学医学部附属病院 〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174番地 <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/>

本紙掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。本紙に関するご意見・ご感想は大学病院広報センターへお願いします。TEL:059-231-5554



ミュースWEB版



フェイスブック